

○8番（南部 豊君） 8番、南部豊。

おはようございます。南部豊でございます。

平成28年6月議会一般質問初日のトップバッターとして、次にしっかりバトンタッチできるよう質問させていただきたいと思います。明快なるご答弁をよろしくお願ひしたいと思ひます。

質問に入らせていただく前に、皆さまもご承知のように5月26日、27日に主要国首脳会議G7伊勢志摩サミットが開幕し、物々しい警備の中、地元の皆さまの並々ならぬご協力と2万3,000人にも及ぶ警察官の皆さまのご努力によって、2日間の日程で無事閉幕いたしました。

5月27日にはアメリカの現職大統領として初めて広島市の平和記念公園の訪問もあり、記憶に残る1日であったと思ひます。今後どのようにして地元産業の活性化につなげていくのか、経済再生に向けた財政と金融政策、三重県民の一人としてサミットの効果に期待したいと思ひます。

そして今、現在も続く九州熊本地震、4月14日9時26分発生以来、甚大な被害が出ており、一連の地震で49名が亡くなられ、ストレスやエコノミー症候群などで亡くなられた方が20名、安否不明の方も1人おみえになります。そして住宅被害を受けた家屋が11万3,000棟に上っていると発表がありました。被害にあわれた皆さま方に対し、心よりご冥福とお見舞いを申し上げます。

それでは質問に入らせていただきます。

今定例会におきましては1点目、本町における財政状況について、2点目、新焼却施設の進捗状況についてをお伺ひします。

本町における財政状況ですが、皆さまも新聞報道などでありました、通告書にはそのように書いておりますが、その後、新聞報道で消費税10%の引き上げを2019年10月まで2年半、再延期するとありましたので、訂正させていただきたいと思ひます。

東員町の平成28年度一般会計補正予算が3月議会で承認され、78億9,200万円で決定されております。予算決定される上において、課題、問題点を伺ひます。当然予算編成方針があり、予算編成スケジュールなどもあると思ひます。

1点目、平成24年度から平成28年度まで、予算額が6億8,300万円増加しており、今後どのような近々の予想額を想定しているのか。

2点目、各担当課より出されている予算枠の設定はどのようにされているのでしょうか。予算を決定される期間、期限はいつごろまでか。

3点目、当町も人口減少による町民税の減少、景気低迷は法人税の減少が少なからずあると思ひます。今までの状況と今後どのような歳入の推移が予想されているのか、今後もさらに財政調整基金の投入のお考えがあるかどうか、またお伺ひしたいと思ひます。

よろしくお願ひします。

○議長（三宅 耕三君） 齋藤博重総務部長。

○総務部長（齋藤 博重君） おはようございます。

南部議員の本町における財政状況についてのご質問にお答えをいたします。

本町での予算編成につきましては、10月に当初予算編成方針を定めまして、職員に対する説明会を開催して財政状況や見通し、本町における課題などについて、共通の認識をした上で予算編成の取り組みを本格化いたします。

また、予算編成の前段階の7月から、サマーレビューとして新規事業や重要事業の聞き取りを行いまして、9月には企画調整委員会において、総合計画実施計画の見直しと事業の優先度・重要度を検証しながら予算計上に向けた事業の選択を行っております。

予算編成においての本町の課題につきましては、昭和50年代を中心に建設されました公共施設の老朽化に伴う改修経費や維持管理経費の増加と人口構成の変動に伴う税収の減少及び社会保障関係経費の増加への対応などが主な課題と考えております。

これらの課題を認識しながら予算編成に取り組んでおりますが、1点目のご質問にありますとおり、近年の予算規模は年々増加している状況がございます。消費税増税や国の施策の影響などもございますが、先に申し上げました本町における課題の社会保障関係費の増加の影響を勘案し、補助金を含めた経常的な歳出の縮減を進め、前年度並みの歳出規模維持に努めたいと考えております。

2点目にご質問いただいております各課からの予算要求につきましては、本町の場合、予算枠を配分して予算要求する方法ではなく、毎年各課が必要な経費を一から積み上げて予算要求する方法で行っており、それぞれの経費が過剰な見積もりとなっていないか、予算査定においてチェックを行っております。

10月の予算編成方針の説明会開催後から11月下旬にかけて、各担当課が予算要求を行い、1月中旬に予算案を決定するスケジュールとなっております。

次に3点目のご質問につきまして、平成26年度税収の状況といたしまして、町内企業の業績がよかったことや大型ショッピングセンターの開業によりまして法人町民税、固定資産税の税収の伸びがございましたが、平成27年度の決算見込みとしましては減収傾向の状況となっております。

また、今後の推移につきまして、町民税は景気の動向や税制改正などにより大きく左右されるため、税収を予測することは非常に難しいところがございますが、主たる財源であります個人住民税は人口構成の変動に伴う生産年齢人口の減少が見込まれることから、毎年1%程度が減収していくのではないかと考えております。

また、法人町民税や固定資産税につきましても、現状におきまして今後は大きな増収は考えにくい状況であり、今後も当初予算編成におきましては財政調整基金を計上する可能性があるものと考えております。

特にこれからの10年は、本町にとって厳しい財政状況を迎えることになるものと考えておりますので、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

○議長（三宅 耕三君） 南部議員。

○8番（南部 豊君） 私はこの財政問題、東員町の今も、これから先の未来も最重要課題と考えてお伺いするわけですが、先ほどの答弁の中でも今後も大変厳しくなる予算であるということは私もわかります。

私が議員にお送りいただいた平成24年度の予算額は72億900万円、この5年間で6億8,300万円が増加しており、こんな予測計算は成り立たないかもしれませんが、このままのペースでいけば、15年もすれば予算額100億円に手が届いてしまう、そんなような状況も考えられてしまいます。税収が減少し、民生費や社会保障費が増大する現状の中、本当にこのままでよいのか、町民の皆さまはその点について特に何かいいお考えがあるのかどうか、もう一度お伺いしたいと思います。

○議長（三宅 耕三君） 齋藤博重総務部長。

○総務部長（齋藤 博重君） 財政調整基金等の繰入れ、今回計上させていただいたんですが、これにつきましては年度間の財源の不均衡、要するに今年、平成27年度、税収が約2億4,000万円ほど減少しております。そういったことが予想されたことから、記録が残っておる昭和56年以降では初めて財政調整基金を取り崩すという予算を計上させていただきました。

これにつきましては、今後新たな税収が格段に上がるという見込みが現在ございません。そういったことから税収の増減によって財政調整基金を取り崩すということも、その都度判断せざるを得ない、そんな状況というふうに認識をしております。そのためには私どもの歳出、こちらにつきましては身の丈に合った標準的な歳出規模を維持しまして、財政健全な運営に努めるようにしていきたいと思っております。

以上です。

○議長（三宅 耕三君） 南部議員。

○8番（南部 豊君） ありがとうございます。

総務課などでは備品の購入、品物によっては数社見積もりによって決定されていると聞いていますが、財政課として何か特別に指導、チェックなどはされていますでしょうか。

○議長（三宅 耕三君） 齋藤総務部長。

○総務部長（齋藤 博重君） 近年取り組んでおりますことに、平成25年度から特に補助金のチェック表というものを各課につくっていただいて、その支出の効果等をチェックすると、そういった仕組みを導入しております。平成27年度の査定の中では、さらにそれを厳しく詳細なチェック表に切りかえながらやってきておりまして、特にこの平成28年度のこれからの総合計画等の見直しの中で、そういったものに取り組んでいくということを各職員に周知していく予定をしております。

以上です。

○議長（三宅 耕三君） 南部議員。

○8番（南部 豊君） ありがとうございます。

私たちが一般的に購入している価格と大差ないと思ってよろしいでしょうか。はい、ありが

とうございます。

国や県ではよくこんな話を聞きます。例えば前年度予算が1,000万円だったとします。当年度800万円、これは職員の皆さまが努力を重ねた結果、200万円を削減していただいた、その差金が出たとします。その結果、次年度の予算が800万円しかつかないというようなことをよく聞いております。本町ではどうされてますでしょうか。

○議長（三宅 耕三君） 齋藤総務部長。

○総務部長（齋藤 博重君） 先ほど答弁の中で申し上げましたように、私ども予算は積み上げ方式ということで、必要な経費の見積もりを数社からとったものをそれぞれの事業に応じて予算を要求されます。

今、南部議員がおっしゃってみえるのは多分予算の枠配分ということではないかと思うんですが、例えば総務部に当初1億円を枠として渡すと。自ら1億円を自分ところで査定してきなさいよという方法かと思えます。翌年、その予算を1,000万円自らが減額して下げてきたら、その1,000万円を翌年にプラスして見てあげましょう、こういうのが実は枠配分のインセンティブ保障という方法でございます。これにつきましては大都市、都市部ではこういうことをやっておられました。ただ現在、やはりそれでは実は保障として与える財源がないということで、その枠配分のインセンティブというのはとりやめて、もう一回一から積み上げる積み上げ方式の予算査定に変更してきております。

現在私どもも歳入が減少する以上は、枠配分による保障を与えるということが歳入減少に伴いましてインセンティブが与えられない、そういった状況が予想されることから、現在の予算、積み上げ方式を今後も維持していきたいと思っております。

○議長（三宅 耕三君） 南部議員。

○8番（南部 豊君） ありがとうございます。

200万円の差金を使い切るように指導するのか、200万円の経費削減と考え評価するのかで、職員の皆さんの考え方、モチベーションは大きく違ってきます。私はぜひ后者であってほしいなというふうに思っておりますが、冒頭にも述べましたが、年々増える予算、これはあるところで歯止めをかけていただきたい。先ほどインセンティブ方式というのはやられてないということでしたが、緩やかな予算計上を目指すべきだと私も思っていますし、1,000円のを1,500円の見積もりをして差金を望むようなことであっては意味がない。当然、見積もり制度チェックというのは重要になってくると思いますので、そこにぜひ力を入れていただきたいと思っております。いかがでしょうか。

○議長（三宅 耕三君） 齋藤総務部長。

○総務部長（齋藤 博重君） これからやはり重要になってきますのは事業の取捨選択、選択と集中ということになってこようかと思っております、これから特に私ども、秋に向けてまして来年度の予算、また総合計画の見直しを3年ほどローリングしておりますので、本当に事業をするのかということで、一つ一つの事業自身をするかしないか、そういったところまでこれからは切り込んでいかないと、歳入に伴う事業は実施は困難になってくると、そういう認

識をしております。

以上です。

○議長（三宅 耕三君） 南部議員。

○8番（南部 豊君） ありがとうございます。

当町も簡単にいうと、一般家庭でいう貯金と定期預金に相当する基金がありますよね。一般会計には財政調整基金を含む積み立て基金に11種類、定額運用基金に2種類、特別会計には国民健康保険と介護保険で4種類、基金の合計17種類あると思います。平成27年度残高、約47億6,000万円と思いますが、間違いはないでしょうか。

○議長（三宅 耕三君） 齋藤総務部長。

○総務部長（齋藤 博重君） 平成27年度末の基金の状況でございますが、基金としましては大きく財政調整基金、減債基金、その他目的基金ということで、これが個別に11基金ございます。今、先ほど南部議員おっしゃいました基金の残額、現在高、そのとおりでございます。

○議長（三宅 耕三君） 南部議員。

○8番（南部 豊君） 当然、貯金もあれば借金もあります。一般会計では現在借金と思われる借入残高、総額はいくらで、また基金を差し引いた金額、どの程度ありますでしょうか、お伺いします。純然たる借金として考えられる金額です。

○議長（三宅 耕三君） 岡本幸宏財政課長。

○財政課長（岡本 幸宏君） ご質問をいただきました一般会計でということでございますが、まず貯金に当たります基金の残高が、今、総務部長が申しあげました47億6,100万円でございます。それに対しまして一般会計の借入れの残高でございますが、どちらの数字も平成27年度末でございますが、54億8,800万円となっております。差し引きいたしまして、7億円弱の地方債の残高という現状でございます。

○議長（三宅 耕三君） 南部議員。

○8番（南部 豊君） 今ご答弁いただきました7億円ぐらいの借金があるということですが、財政調整基金ですね、災害や急激な景気後退などの不測の支出や減収に備えるとともに、年度間における財源の不均衡を調整するための基金であるというふうにお聞きしてありますが、3月議会で基金から6億9,000万円の取り崩しを私たち議会は承認はいたしました。

町民の方々から、広報とういんや議会だよりを見ると、ここ数年の決算報告は黒字やないかと、黒字のはずなのになぜ調整基金から2億4,000万円の繰入れをするのかという質問をいただきました。恥ずかしながら、私は明快なお答えができませんでした。そこで私自身も勉強させていただきたく、もう一度お聞きしたいと思います。今後また、そういった調整基金を投入される予定でしょうか。

○議長（三宅 耕三君） 齋藤総務部長。

○総務部長（齋藤 博重君） まず平成28年度予算の中では財源が約2億数千万円ほど不足すると。そういったことから調整基金を取り崩しということで予算計上させていただきました。

した。この後、平成29年度に向けては、この7月に交付税の算定ということで、こちらで法人税等の収入を見ながら交付税の今年の受ける分が決まってまいります。それと平成28年度末に向けて各法人さんの決算状況が出てきますと、来年度の税収の見込みがたってくると。そういったことを見きわめた上でさらに財政調整基金を崩す必要があるかということは、その予算編成の中で見きわめていきたいと思っております。

以上です。

○議長（三宅 耕三君） 南部議員。

○8番（南部 豊君） 町民の皆さんの関心はそういった貯金、定期預金になるものに対して、やはり私たちも一緒ですよ、余り使いたくない。当然、予算編成上使わなくちゃならない現状ということ、総務部長、おっしゃられたと思いますが、私たちこれ平成24年度から平成27年度を見ますと、繰入金、黒字ということで報告を聞いているわけですよ。町民の皆さんは、そういうところが少し疑問に思われたのではないかなと私は思います。

こうした厳しい財政運営の中、町として町民の皆さんに何を今望まれるわけですか、お聞きしたいと思います。

○議長（三宅 耕三君） 齋藤総務部長。

○総務部長（齋藤 博重君） 昨年の町政懇談会でも、繰越金に対してどうしても説明がうまく伝わらないときがあるんですが、企業さんですと決算を3月末で行って、それをそのまま翌年は設備投資とか貯金にするという考え方がございますが、どうしても行政というのは繰越を出して、その繰越を翌年度の財源に使ってます。ですので平成26年から平成27年、ここで4億8,500万円ですが、その前と比較しますと約2億3,000万円ほど減額している。ですから平成26年から平成27年の時には、実質2億3,000万円ほど赤字になっておるとというのが現状です。

どうしても繰越という、企業さんとの考え方が行政とは違うものですから、4億円残っておるじゃないかという考え方、当然あるんですが、そのうち当初予算に1億5,000万円計上しております。ですから4億8,500万円のうち、残り3億円程度、それが去年のこの時期に比べて2億円ほど減っておるということなんです。残りの補正予算の財源も3億円程度、ただそれ全部使っちゃうと、翌年の平成29年度の運転資金がなくなるということで、そのあたりが去年に比べて2億円ほど減っておるということで非常に厳しい状態になっておると、そういう認識をしております。

以上です。

○議長（三宅 耕三君） 南部議員。

○8番（南部 豊君） ありがとうございます。

町民の皆さんはそういったところをやっぱり知りたい。私たちも広報活動の中で、そういったところを訴えていかなければならないのかなと私は思います。

私は平成24年2月に皆さまに議会議員として送っていただきました。その時の思いは、たとえ1円のお金、私たちの納めた税金を無駄に使ってほしくないという思いからでございます

た。有効に有意義に使ってほしいという思いは今も変わってはおりませんが、今後町民税や法人税、新規事業さんの企業誘致が進まない限り増収にはつながってまいりません。

先の新聞報道で、農林水産省が21市町に農地転用許可の権限を委譲するというニュースが新聞に載ってましたね。申請のあった市町ですね、21市町なんですが、新聞に東員町の3文字を目にした時、非常にうれしい気持ちでいっぱいでした。行政の皆さん、頑張っておってくれるんだなという思いがありました。

地区事情に適合した農業政策を推し進め、以前から申し上げている財源の確保、健全財政が町にとっても最大の懸案であると思います。

将来、町の顔となり得る東員インター付近の開発や三和地区の活性化につながる政策、町行政にとっても進めやすくなったのではないかなと期待をしているわけですが、その点についてはどうでしょうか。

○議長（三宅 耕三君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 今回の件につきましては、規制緩和ではなく権限委譲なんです。ですから農地法や都市計画法は何ら変わらないということで、2ヘクタールを県と協議して農転できる、それは農地法であれ都市計画法で、できるよというものに、そういう土地に関して町に与えられた権限なんです。それが2ヘクタールから4ヘクタールに増えただけで、都市計画法、農地法、何ら変わってないので、現状は全く変わってないのと同じだと考えていただいたほうが良いと思います。

○議長（三宅 耕三君） 南部議員。

○8番（南部 豊君） 今、町長がちょっと厳しいような認識を求められたわけですが、やはりああいう新聞報道の中では、それを読まれた町民の皆さんはそういうふうにはとらえておみえにならないと思います。少しでも2ヘクタールが4ヘクタールに増加した、そういった権限委譲が今後やりやすくなるのではないかというふうに言われておみえになりましたし、こういうものは前回3月議会でも町長に質問させていただいた、事務レベルでの話も進んでいるということでしたので、その点については期待はさせていただきたいと思いますが、やはり私はこういった開発に関しては、町長、首長としての思い、そういったものが重要になってくると思いますので、活性化に向けた、また将来に向けた財源確保に向けたような施策をどんどん打ち出していきたいというふうに期待をするわけですが、どうでしょうか。

○議長（三宅 耕三君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 今の現状の中で、今の法律の中で、法律といえども人間がつくったものですから、やはり人のためになってもらわないといけないというふうな思いを持っております。

そんな中でいろんな規制があって、法律でがんじがらめになっているんですけど、少なくともその中でやれること、解釈によって国や県がある程度目を開いてくれるようなこと、そういうところを、言葉は悪いですけど、すき間へ入り込んで、とにかくやれることをやっていかな

いといけないというふうに思っておりまして、現実問題、今我々が進めていることは法律を犯すということではなくて、その中で何とかやれることをやっていきたい、そんな思いで少しずつ進んでいるものもあります。今ここで発表するというわけには、まだ相手さんもみえますのでいけませんけど、何とかその中でやり繰りをしていきたいというふうに思っております。

○議長（三宅 耕三君） 南部議員。

○8番（南部 豊君） ありがとうございます。

町長、私、何も法律を犯してやってください、進めてくださいって申し上げているわけではありませんので。やはり町長の思いとして前向きにそういったものに立ち向かっていただきたい、打破していただきたい、行政としてやれることを県に対しても推し進めていただきたいという思いであります。

これで財政問題についての今回私が質問させていただきました財政問題、適切でない部分がありましたら、ぜひまたご指摘していただきたい、教えていただきたいと思っております。

続きまして2項目の新焼却施設の進捗状況についてをお伺いしたいと思います。

平成32年度で終了となる桑名広域清掃事業組合、新焼却施設建設は桑名市が主催で進められている事業、東員町としても少しでも軽減していただきたい事業であります。

4月28日、当日配付された資料、参加する1市2町の全体の建設費及び維持管理費その他に関する資料がありました。そこでお伺いします。

1点目、以前一般質問でお聞きしました建設費より大きく増加しているのはなぜか。

2点目、東員町としてどのようなかわり方をしていくのか。

3点目、昨年、桑名広域清掃事業組合の専門委員さんや議会議員さん、そして私たち本町教育民生常任委員会で行った視察研修、行政からの2名の参加もございました。こういったものが、そういったところに視察研修に行って参考にされているのか。

4点目、熊本地震による資材購入の人的費の高騰や東京オリンピックの開催による影響が考えられるが、どのように桑名広域清掃事業へ提言していくのか。

この4点についてお伺いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（三宅 耕三君） 伊藤通数生活部長。

○生活部長（伊藤 通数君） それでは南部議員の新焼却施設の進捗状況についてのご質問にお答えさせていただきます。

ご質問の新施設は、三重県によるRDF焼却発電事業が平成32年度末で終了することに伴い、その後の可燃ごみ処理を行う施設として、現在、桑名広域清掃事業組合で組合敷地内の旧焼却施設跡地、具体的には現在のプラスチック圧縮梱包施設の南側に整備を進めているものでございます。

現在桑名広域清掃事業組合では2市2町、桑名市、いなべ市、木曽岬町、東員町の枠組みで、可燃ごみをRDFと呼ばれる固形燃料に加工することにより中間処理をしておりますが、新しい施設では焼却方式によりごみ処理を行うこととしております。

広域の枠組みにおきましては、いなべ市が抜けて桑名市、木曽岬町、東員町の1市2町



となることが決定しております。

ご質問の本年4月28日の本町議会全員協議会でお示しさせていただきました資料でございますが、新施設建設費の見込額が約151億円と、平成25年の議会一般質問でご答弁させていただきました110億円とを比較し、大きく増加している理由につきましては、当時同様の施設建設に係る全国の平均的な落札価格が、ごみ処理能力1トン当たり5,000万円程度であったものが、最近では資材費や人件費が高騰しており、現在の物価ベースに合わせて、トン当たり約8,700万円程度と見込ませていただいた結果によるものでございます。

2点目の東員町としての事業へのかかわり方について、本整備事業を進めるに当たっては、桑名広域清掃事業組合として本町議会の議長にご就任いただいていることに加え、行政側からは桑名市、木曾岬町、東員町の各構成市町の担当職員で構成するごみ処理施設整備検討委員会、また学識経験者などと各市町の部長級職員で構成するごみ処理施設整備専門委員会に、それぞれ1市2町から同じ人数の職員が委員として参加しております。対等な立場で議論、検討を進めております。

このような中、新ごみ処理施設に係る負担金については、構成市町間の協議により、これまでの負担割合を見直し、ごみ減量に取り組んだ市町にメリットがある計算方法といたしました。

また、本年度4月からは桑名市広域清掃事業組合に設置しております新ごみ処理施設の建設準備室に本町からも企画調整特命監として1名の職員を派遣し、業務に当たっているところでございます。

3点目の視察研修結果などを業務の参考にして活用しているかというご質問につきまして、これまでごみ処理施設整備検討委員会として、平成26年度にはそれぞれ異なる処理方式による3カ所のごみ処理施設を視察したほか、昨年度には静岡県御殿場市の富士山エコパーク焼却センターにおいて、桑名広域清掃事業組合の組合議員研修と本町議会教育民生常任委員会の研修が行われた際、本町の担当職員も同行させていただき、整備事業を進める上での参考とさせていただきます。

最後に先般の熊本を中心とした災害や東京オリンピックに向けた公共工事の増加、資材費や人件費の高騰による本整備事業への影響については、昨今の公共工事における入札不調などの例もございますことから、事業期間の前倒しも含め、今後も確実に事業を進めるよう努めてまいります。

以上、ご理解賜りますようお願いいたします。

○議長（三宅 耕三君） 南部議員。

○8番（南部 豊君） ありがとうございます。

何点かお聞きしますが、まず初めに、以前、平成25年9月議会の質問で当時のごみの総量、約5,000トン、可燃ごみの総量4,100トンとお聞きしました。今現在何トンぐらいの総トン数、詳しいデータがなければ近々で結構です。どのような量でございましょうか。

○議長（三宅 耕三君） 伊藤通数生活部長。

○生活部長（伊藤 通数君） 今現在の数量としましては、約4,100トンという年間

の可燃ごみの処理量でございます。

○議長（三宅 耕三君） 南部議員。

○8番（南部 豊君） 現在、本町からの可燃ごみの排出量は当時と全く変わってないということですね。今お答えいただきました。これ一生懸命削減に向けて、この数年間、2年間強やってきたわけですが、残念なことかなと私は思います。

今後も削減に向けて努力はしていただきたいわけですが、金額についてまたお聞きしたいと思いますが、平成25年6月、9月議会において、先ほども答弁にありました焼却施設が約100億円、周辺施設が10億円、合計で110億円というふうにしてお聞きしています。その時の建設負担金が19億5,000万円と答弁をいただいているわけですが、その後、3回ほど途中経過などの説明はあったと思いますが、金額の説明はなかったように思います。今回の資料を見ますと、先ほども答弁ありましたね、建設費が151億円、相当増加していますね。維持管理費を合わせますと、合計約320億円という相当大きな金額になっていますが、本町の負担額いくぐらいと推測されているのか、お伺いしたいと思います。

○議長（三宅 耕三君） 伊藤生活部長。

○生活部長（伊藤 通数君） それではちょっと端数も入ったの形になりますけど、大まかに全てを320億円というふうに表示させていただきました。建設費としましては、全体でございますけども、これを分解して計算しますと111億900万円、これが建設費でございます。これに国の補助金としまして、交付金でございますけども、39億9,700万円を見込んでおります。これはいろいろな補助率がありますので、半分の補助もありますし、半分いかない補助もございますので、全体的には26.35%の補助金額というところでございます。

それに対しまして地方債が計画しておりますのが90億4,100万円、これは3年据え置きで15年間の償還、また金利としては0.5%を見込んでおります。それに不足する一般財源が20億7,100万円でございます。ここに係ります建設費に係る各市町の負担としますと、償還する地方債と一般財源が各市町の負担になるわけでございますけれども、それを東員町に換算しますと、トータルでは補助金を抜きますと115億4,400万円、うちの負担率が15.31%でございます。それを計算しますと17億6,738万6,000円、ちょっと細かい数字になりますけども、約18億円弱になるわけです。

それと今度は維持管理につきましては、これは20年間を一括で契約していくという形になりますので、その点の中で数字を出しておりますけども、維持管理費経費が合計で169億3,700万円余です。これは補助金であり、手法が違うので計算しておりませんが、それが全てでございます。それを東員町の按分としましては、負担が約15.2%になりますので、それを20年間分の負担を計算しますと、25億4,393万7,000円でございます。その建設費と維持管理費を合わせますと、合計で43億1,132万3,000円です。これを20年間で割りますと、2億1,556万6,000円でございます。これが毎年と、建設費の払い方もありますので、平均的に出した形になりますけども、今現在はRDFに3億2,0

00万円ほど払っておりますので、約1億円弱が減ってくるというような計算になります。

先ほどのと合わせてごみのほうですけれども、平成26年度が可燃ごみ、細かく言いますと110トンでしたが、同じくちょっと端数を合わせますと、両方とも平成26年度、平成27年度も端数調節して約110トン、変わらないという状況でございます。

以上です。すみません、追加でございます。

○議長（三宅 耕三君） 南部議員。

○8番（南部 豊君） はい、ありがとうございます。

約43億1,000万円ということで、毎年2億1,000万円ずつかかっていくわけですが、でもそれには、その他経費として町内から出される処理量なんか、これも含まれているんですか。お願いします。

○議長（三宅 耕三君） 伊藤生活部長。

○生活部長（伊藤 通数君） 維持管理経費というふうには話をしましたけども、これはごみを搬入しました、うちのほうで言ってますと、計画から出しておりますけども、ごみ処理も含めた費用でございます。

○議長（三宅 耕三君） 南部議員。

○8番（南部 豊君） 現在3億数千万円ですね、それが2億1,500万円ほどで、1億円ほど削減されてくるということによろしいんですか、そうですか、はい。

当然それ、金額が安くなるということは非常にありがたい話ですね。ただしこれ、相当大きな予算を必要とするものなんですよ。いろいろこういった金額が出てくるということに関して、なるべく議会にも早く事前に情報をお示しいただきたいというふうに思います。

建設スケジュールから考えますと、今の金額はまだ決定じゃないですよ。いつごろまでに決定しないとイケないのでしょうか。

○議長（三宅 耕三君） 伊藤生活部長。

○生活部長（伊藤 通数君） まだ入札とか、いろいろな形は進んでおりませんが、まず設計に入るのが来年以降、来年1年かけて設計をします。その後、平成29年、平成30年以降に入札というふうな流れで進めていく形でございます。

ただ、いろいろ設計の中では、今の大きな考えから、もっと詳細にわたって設計をしてみたいし、またその中で必要なものとか不必要なものも出てまいりますので、こういった試算というか、金額的なものも逐次変動してまいりますので、そのときには皆さんのほうにまたお示しをさせていただきますので、よろしく願いいたします。

○議長（三宅 耕三君） 南部議員。

○8番（南部 豊君） ちょっと先ほども申し上げましたが、昨年、教育民生常任委員会で視察研修をした、これは4月23日に行っておりますが、静岡県の御殿場市にある富士エコパーク焼却センター、これは生活環境課からもお二人参加していただいておりますが、ほぼ処理能力としては同等です。焼却方式もストーカ炉方式で一緒ですね。自然環境に配慮された施設でありました。

詳しい施設内容についてはここでは申しませんが、視察をしてきた結果、この施設のすばらしさ、参加した人たちの心の中に大きく何かを訴えているような施設でありまして、現在進んでいる施設が総額約320億円ですよね。これ富士エコパークはこういった同等施設にもかかわらず、私はちょっと比較してみましたら、事業総額として160億円、建設費が66億円、運営維持管理費が、これも20年間で70億円、焼却灰の処理費用、これが24億円、これをトータルしても160億円なんですよね。

しかもこの施設のすばらしいのは、いろんな方式は違うでしょうが、37名ほどの作業員の方がおみえになりまして、組合のほうで3名の方がそれをまとめてみえるということで、非常に経費としてはかからない施設だったわけでございますね。

これは桑名広域清掃事業組合さんの関係者の皆さんも当然視察にも行っていただいた場所でもありますし、たくさんの方々の施設の中、検討判断が求められているわけですが、地球環境に配慮した環境評価など、たくさんな作業と思います。ただこれ、事業費総額が160億円、これは十分検討すべき施設に値すると私は考えていますので、本町としてもう一度このような施設、こういった方式があるということを提言していくようなことはできないでしょうか、お伺いします。

○議長（三宅 耕三君） 伊藤生活部長。

○生活部長（伊藤 通数君） そうですね、いろんな提言は今後まだまだできる部分はあるかと思いますが、視察に行っていた場所も、今回広域清掃事業組合でやります事業施設のやり方は、ほぼよく似たものになります。ただ、やり方としての方法としましてはODBとかBTB、資金の民間でやるか広域・公共でやるかというような違いがございますけども、同じような形式の形で工事を進めることで進めております。

ただ、やはり事業費につきましては、ここは平成23年度に建築がされておるかなと思うんですけども、先ほども南部議員もご指摘なりご心配がありました物価の上昇、またデフレからの脱却もございまして、どうしても今試算しますと、金額的には膨らむ形でございます。

○議長（三宅 耕三君） 南部議員。

○8番（南部 豊君） ありがとうございます。この金額は、今お聞きした周辺施設、今回継続する施設もございますよね。撤去費なんかはまだ含まれていないということだと思いますが、撤去施設の費用が相当負担がかかってくると思いますが、その試算もされておみえでしょうか。

○議長（三宅 耕三君） 伊藤生活部長。

○生活部長（伊藤 通数君） 撤去につきましては、運営といいますか、事業が開始して新しい施設が動き出してからという形になりますけども、なかなかその段階まで読みにくい、何年か先になりますので、読みにくいというところがございますけども、担当者レベルの中では、今現在、正式な数字ではありませんが数億円以上はかかると考えてございます。これもおいおい明確にさせていただく中で、皆さんと同じように、先ほどと同じように早いうちに、もしそういう金額が出ましたら報告をさせていただきたいと思っております。

○議長（三宅 耕三君） 南部議員。

○8番（南部 豊君） ありがとうございます。

以前こういったことに対して町長が県に対して責任をはっきりし、負担金を含め、強く求めていくとおっしゃっておみえになったことがありました。そういったことでぜひ桑名市の伊藤徳宇市長が管理者、木曾岬町長と東員町長、水谷町長は副管理者としてこういったことにかかわっておみえになると思いますので、今後も強く求めていただきたいと思います。

あと、この施設整備スケジュールとかそういったもの、新焼却施設の整備等に関する説明会が各地で予定されていますね。東員町も笹尾コミュニティセンターで6月26日に開催される予定です。焼却施設、東員町の町民の皆さんにとっても維持管理、この費用というのは、子や孫たちに引き継がれていきます大きな負の財産にならないように十分議論を重ね、方向性を出していかなければならない案件だと思いますし、我々議会としても、しっかり取り組みをさせていただきたいということをお約束して、私の6月の一般質問を終わらせていただきます。

どうもありがとうございました。